

培養土の
過剰肥料を
瞬時除去

肥料残りがでない・花ぐされがでない

エヌトール

(ランド ライフ-S)

肥料過多、チッ素過多の症状が現れたらいつでもお使い下さい。

葉色が異状に濃くなる、葉が巻き込む、などの症状は培養土に過剰なチッ素がたまっていた為です。根ぐされや、生育不良の原因となり、開花期まで持ち越せば、花ぐされや花弁の伸びが悪くなる。花の乱れの原因となり優秀花は望めません。生長期・着蕾～開花を問わず早急に改善する必要があります。

- 葉色が異状に濃くなった、葉が巻いてきたら、即お使い下さい。
- 水のしみ込みをよくし、通気性・排水性も改善し根力を高め
水や肥料の吸収を活発にし、生育を促進する効果もあります。



1kg

特 徴 … 肥料を除去する資材です。

- 肥料は電氣的に土と結びつき保持されています。エヌトールはその結合を瞬時に切り離し、水掛けにより鉢外に流し落とす。
- エヌトールを定期的に使用することで、培養土に過剰にたまっていたチッ素分を流し落とし、リフレッシュすることが肥料濃度を適正に保ち、根の働きが活発になり、健全で旺盛な生育をします。
- 秋に重度のチッ素過剰が起きた場合、エヌトールであらかじめ培養土の肥料濃度を下げることで、「PK. マグ」による肥料調整を円滑に効率よく進めることができます。



チッ素過多の葉っぱ

効 果

- 過剰な肥料分を落とし適正な肥料濃度を保ちます。
- 毛細根の発達がよくなり、根の働きが活発になります。
- 肥料や水の吸収が良くなり旺盛な生育をします。
- 培養土の排水性通気性がよくなり、根張りがよくなります。

チッ素分の適正化は優秀花への近道です!!

培養土にたまっていたチッ素分は、水をタップリ掛けたり、ドブ漬けしたくらいでは簡単には落ちません。その専用資材が**エヌトール**です。

こんな時にこんな使い方

除去できる肥料は、チッ素、カリ、その他陽イオンです

1. 秋の肥料調整や生長期にチッ素過剰症が現れたとき

生長期・秋の肥料調整期を問わず「葉色が異常に濃くなったとき」、「葉が巻き込んできた」、などチッ素過剰症が現れたとき500倍に水でうすめ鉢底からタツプリと流れでるまで掛け、引き続き水で洗い流します。

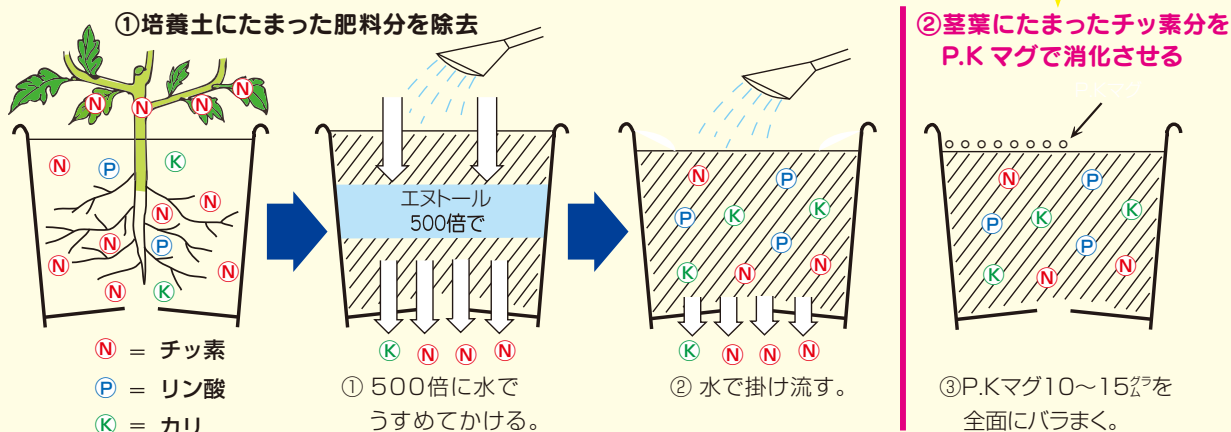
5号鉢	0.5～1 リットル掛け	1～2 リットルの水で掛け流す
7号鉢	1～2 リットル掛け	2～3 リットルの水で掛け流す
9号鉢	2～3 リットル掛け	5～10 リットルの水で掛け流す

※ **チッ素過剰症が現れた鉢のみ** 選択的に施します。すべての鉢を一律に扱うことはしません。

効 果

- 過剰なチッ素分を除去し健全な生育を促す。
- 過剰なチッ素分を除去し花の肥大をよくします。
- 過剰なチッ素分を除去し花の乱れを出にくくします。

作業手順



コレ重要

肥料除去後は必ず実行

2. 定植後定期的に使用する・・・過剰のチッ素分を除去し肥料濃度を適正化し、新根の発生を促す。

2週間に一度を目安に定期的に使用する
うすめ倍率は500倍で鉢底からタツプリ流れでるまで掛ける。
引き続き水で洗い流します。

5号鉢	0.5～1 リットル掛け	同量の水で掛け流す
7号鉢	1～2 リットル掛け	同量の水で掛け流す
9号鉢	2～3 リットル掛け	同量の水で掛け流す

効 果

- 新根の発生がよくなり、根の働きが活発になる。
- 肥料や水の吸収が高まり生育が良くなる。
- チッ素過剰が改善され健全な生育をする。
- 秋の肥料調整がしやすくなる。



3. 鉢の汚れ落としに

鉢に付着した白い汚れは、肥料（チッ素）がこびりついたものです。
そのまま使うと肥料が溶け出し、肥料濃度が高くなる為、障害を起こし生育不良をひき起こす場合があります。
鉢をくり返し使用する場合は洗浄除去して使用する必要があります。



水を掛けてタワシ等でこすっておとします。

※ゴム手袋等をはめて作業してください。
使用後は、よく手を洗ってください。

4. 培養土に肥料分を入れ過ぎた時

腐葉土づくり時の米ヌカの入れ過ぎや培養土づくり時の乾燥肥料の混入により、明らかにチッ素分が多すぎ「芽先の枯れ込み」が予想される時500倍にうすめ掛け流す。
培養土10リットル（約9号鉢1杯）に対し500倍液2～3リットル掛け、引き続き水5～10リットルで掛け流す。

お申し込み・お問合せは

ウチダケミカルコーポレーション

TEL 029-869-1777

FAX 029-869-1666

〒300-4204 茨城県つくば市作谷 1711-12 郵便振替 00820-6-96628